

事例

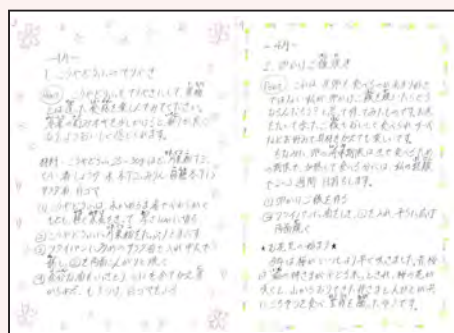
子供宅食における食育活動

一般社団法人こども宅食応援団（東京都）、こども宅食えんまる便（長野県）、クレエール子ども食堂宅食便（徳島県）

近年、支援を必要とする子育て家庭に定期的に食材を届ける子供宅食の取組が広がりつつあり、平成30（2018）年には一般社団法人こども宅食応援団が立ち上がりました。こども宅食応援団では、ウェブサイトを活用した情報発信等による子供宅食の普及や活動支援に取り組んでいます。

農林水産省では以前から、学校給食におけるごはん食の拡大を支援するため、政府備蓄米を無償交付する取組を行ってきましたが、令和2（2020）年度から、子供食堂や子供宅食において食育の一環としてごはん食を提供する取組に対しても交付を開始しました。各地の子供宅食実施団体では、政府備蓄米を各家庭に届ける中で、ごはん食の魅力を伝えるなどの食育の取組を行っています。

長野県長野市で活動する「こども宅食えんまる便」は、長野県立大学健康発達学部食健康学科の学生に協力を依頼し、学生が作成したレシピと手紙を米と一緒に子育て家庭に届けました。家庭によっては、食材が届いても調理の仕方が分からず、使用できないことがあるため、簡単に作れるレシピも同封することで、料理が苦手な人でもすぐに調理ができるように工夫しました。



学生が作成したレシピ

徳島県徳島市で活動する「クレエール子ども食堂宅食便」では、200軒の子育て家庭に米や手作り弁当などを届けており、米を届ける際には米の研ぎ方、炊き方、米を使ったレシピを同封しました。定期的に子供料理教室も開催しています。また、子供宅食の活動とは別に、令和元（2019）年6月と令和3（2021）年6月には、「おにぎりキッズ大会」を行いました。大学生のボランティアに協力してもらい、いろいろなおにぎりの材料を揃え、子供たちに好きな具材を選ばせたり、おにぎりの握り方を教えたりして、オリジナルのおにぎりを作り、みんなで一緒に楽しく食べました。子供たちの笑顔や喜んでお礼を言いながら帰る姿を見て、支援者も心地よい達成感を感じることができました。



クレエール子ども食堂に届いた政府備蓄米



おにぎりをのせたクレエール子ども食堂お子様セット



「おにぎりキッズ大会」の様子